

教育相談研修への継続参加の要因に関する検討

春日 由美 山口大学教育学部

Factors of continuous participation in educational counseling training

KASUGA, Yumi

Faculty of Education, Yamaguchi University

(Received November 30, 2020)

要約

本研究の目的は、教員の教育相談研修への参加意欲を高める要因について検討することである。筆者が行った教育相談の継続研修の参加者14名を対象に、研修に継続参加した理由について自由記述による質問紙調査を行った。検討の結果、研修参加の要因として「ニーズや実践とつながる研修内容」「自分を見つめる・他者と共有し受け止められる時間」「研修方法・環境の工夫」の3つがあることが示された。また「自分を見つめる・他者と共有し受け止められる時間」は「ニーズや実践とつながる研修内容」や「研修方法・環境の工夫」の両方の側面を持つと考えられた。

キーワード：教育相談，研修参加要因，参加者の視点

I はじめに

現在教員には、児童生徒の抱える様々な課題に適切に対応し、またそのために保護者を含めた他者と連携協力する教育相談力が求められている。羽田（2014）が教育相談について「全ての教師が児童生徒に接するあらゆる機会をとらえて、あらゆる教育活動の実践の中で生かす必要があり、学校教育を進めるうえで基礎となるものである」と述べるように、児童生徒の成長発達を支えるために、教育相談力は全ての教員が身につけるべき力であり、日々の児童生徒との関わりの中で生かす力であると考えられる。一方で新井（2007）が、児童生徒との人間関係が悪化した場合には教員と児童生徒双方にとって大きなストレスとなることを指摘しているが、児童生徒との人間関係は、教育相談においても重要な要素であるばかりでなく、教員自身のメンタルヘルスにも影響を及ぼすと言え

よう。このように、児童生徒や保護者と信頼関係を築きながら、児童生徒の抱える課題に適切に対応する教育相談力は、児童生徒のためにも、教員自身のためにも、基礎的であり、かつ重要な教員の資質能力の一つと考えられる。

そしてこれまで教員の教育相談に関する資質向上のため、全国で数多くの研修が実施されている（米田,2008;中島,2012）。栗原ら（2005）は全国の教育センターで行われている生徒指導や教育相談の研修について調査し、「教育相談の講座が定員を超えるような人気講座になっている機関も少なくないという事実は、この問題が教師にとって深刻な問題であることを示唆している」と述べるように、教育相談研修へのニーズは高い。このような現状の中、石川ら（2015）は教員研修について、効果検証や参加した教員からの評価がなければ役立つ研修として成立・発展させていくことは難しいだろうとし、内容

や実施形態についても検討していく必要があると述べている。この指摘の通り、単に研修を行うだけでは十分でなく、どのような研修が参加者にとって有益かについて客観的な効果検証や参加者の視点から検討を行い、研修を精錬させていくことが不可欠であろう。そしてこれまで教育相談研修の効果については、社会的スキルの向上（橋本ら,1998）や自己の再確認や視点の広がり（石川ら,2015）、自己意識や他者意識等の変化（春日,2016；2017）など複数報告されている。

一方で参加者の視点からの検討としては、榊原ら（2005）が教員研修について分析を行い、受講者にとって「受けてよかった」と思われる研修の条件として、外的側面として笑いや楽しさを導く雰囲気といった、受講者が積極的に参加できるような環境、内的側面として議論や作品作り、模擬演習など研修での課題やその構成といった複数の側面を報告しており、研修の様々な側面が受講者の満足度に関連する可能性が考えられる。しかしこれまで参加者の視点からの研究が蓄積されてきたとは言い難く、今後は参加者の視点から、どのような研修の要素が受講者の満足感や参加意欲に繋がるかについて、環境や研修の形態、構成等も含めて多面的に検討していくことが必要であろう。

以上のことから本研究では、筆者が行った教育相談の継続研修の参加者を対象に、研修に継続して参加した、あるいはしようと思った理由について調査を行い、参加者の視点から研修参加への意欲を高める要因について検討することを目的とする。

II 研修概要と研究方法

今回の研修は企画・広報・参加者募集・講師・研修運営を筆者が行った。以下に研修概要および研究方法を記す。

1. 研修参加者と研修内容

1) 参加者募集と参加申し込み方法

参加者募集の広報は以下の①～③の3つの方法で行った。①筆者が所属する大学がある県の県教育委員会を通じ、県内の公立学校宛にチラシを添付したメールの送信を依頼した。②大学近隣の3市の市教育委員会を通じ、各市内公立小・中学校に1教員1枚のチラシの配布を依頼した。③大学近隣の県立高等学校3校と県立特別支援学校3校に1教員1枚のチラシの配布を依頼した。

チラシには研修内容や申込方法等の他、アンケートやインタビューでの研修の効果研究への協力を依頼する予定があること、研究への協力は自由であることを記載している。参加を申し込みの場合、著者の大学メールアドレスへ直接申し込みのメールを送信してもらった¹⁾

2) 研修期間・時間・研修場所

研修は2019年6月、7月、9月、10月、11月、2020年1月に月1回計6回実施した。研修日時は水曜日午後19時～20時30分の1時間半である。研修会場は筆者が所属する大学であり、県のほぼ中央部に位置する。

3) 参加者

参加者は現職教員50名である(小学校16名、中学校14名、高等学校9名、特別支援学校10名、教育委員会1名)。その他スタッフとして、現職中学校教員1名と臨床心理士1名、臨床心理学専攻の大学院生1名が参加した。スタッフを除く6回の平均参加者数は44.17名で、参加率は88.3%であった。各回の参加者数と参加率(%)を表1に記す。

表1 各回の参加者数と参加率

回	1	2	3	4	5	6	平均
参加者 (人)	50	48	45	42	41	39	44.17
参加率 (%)	100	96	90	84	82	78	88.3

4) 研修内容・研修方法

毎回の研修内容とワークを表2に記す。今回の研修は教育相談力の基礎的力を養うための「基礎編」と位置づけ、内容を設定した。栗原

ら(2005)は、今日的教育課題に的確に対応するには、生徒の実態を的確かつ多面的に「理解」し、知識や理論と照合して「判断」し、その判断に基づいて具体的な「対処」をする必要があると述べており、児童生徒や保護者と関わる際には、まず「理解」が基本となると考えられる。また秋光ら(2009)は「子どもや学級に生じる反応には教師自身のありようが大きく影響」し、「教師が自分自身のありようを理解」する力は、教師にとって重要な資質能力である」とし、「教師の自己理解を促進する研修が必要である」と述べている。その他の先行研究からも教員自身の自己理解や児童生徒や保護者等への他者理解は教育相談力の中でも最も重要なものの一つと考えられている(春日,2016;2017;2020)。そのため今回の研修は教育相談力の基礎的力を養うための研修として、教員の自己理解、児童生徒や保護者等への他者理解、ケース理解を扱った。

また今回の研修では、毎回複数の自己理解や他者理解、ケース理解に繋がるワークを行い、参加者同士でワークの内容を共有するようにした。加えて毎回の研修の初めに、前回の研修の最後に書いてもらったアンケートの自由記述の部分を数名分匿名で紹介することで、前回の振り返りを行うとともに、全体で参加者が感じたことを共有するようにした。青木ら(2001)は月1回の継続的な教育相談研修講座について検討し、研修講座受講者同士が“互いにわかりあえる”貴重な仲間となりうることを指摘している。また松田(1999)は教育相談研修について、生徒一人ひとりが大事にされる教育相談が行われるような研修を組み立てることが大切であると述べているが、そのためには教員自身が研修において自分を大事にされている感覚、自分を大事にする感覚を味わうことが重要であろう。今回の研修では、他者とのワークやアンケートの共有を行うことで、他者に話を聞いてもらったり、他者と考えを共有する機会を設け、

お互いに分かり合える感覚や他者から受け止められる体験に繋がるようにした。

表2 研修内容とワーク

回	内容	ワーク
1	①オリエンテーション	① TST (Twenty Statements Test)
	②自己理解・自己開示	② TSTを使った自己紹介 ③こころの天気
2	①コミュニケーション (ものの見方, 非言語)	①私が私を好きなのは ②流れ星
	②自己受容・被受容感	③5つの聴き方
	③共感的理解	④ありがとうの花束
3	①こころの整理法	①頑張っているね, 私
	②本当の共感的理解	②こころの整理法 ③共感的理解のワーク
	①関わりにおける自分	①今の気分
4	②カウンセラーの面談・電話のコツ	②アサーティブ・チェックリスト ③今日のありがとう, 明日の私へ
	①カウンセリング的視点からの多面的なケース理解	①こころの天気 ②架空事例のケース理解のワークとグループでの検討
	①ジェノグラム・エコマップを用いたケース理解	①つながり地図 ②架空事例のジェノグラム・エコマップ作成とグループでの検討
6	②修了式	

その他、今回の研修は月1回の継続研修という特徴がある。小川ら(2010)は教員を対象としたカウンセラー指導員の研修プログラムを実施し、理解度を高めるためには複数回授業で詳しく述べるのが重要であると述べている。理解しやすさや知識が身に着く感覚も、研修の満足度に関連することが考えられる。今回の研修では繰り返し重要な点について触れ、理解が深まるようにした。また毎回の研修の初めに前回までの復習を行い、継続研修の連続性を作るようにした。

以上の他、今回の研修では以下の①～④の工夫を行った。①毎回の研修前に座席のくじを引いてもらった。これはワークで様々な参加者と交流することができるようにするためと、知り合い同士が近くの席に座ることを避けるためである。②毎回の研修終了時にアンケートを書いてもらい、参加者自身が研修を振り返る時間を持つようにした。③アンケートに書かれた内容

を元に、次回の研修内容を調整するなど、参加者の感覚を確かめながら研修を進めるようにした。④教師や教育相談に関する読み物を読んでもらい、教師として自分が大切にしたいことについて考える時間となるようにした。

2. 研究方法

1) 研究協力者・調査方法

2020年1月の6回目研修終了時に、6回中4回以上出席した参加者に対して、研修への継続参加の理由についてインタビュー調査を行う旨を文書と口頭で説明して研究協力者を募集し、18名が協力を申し出た。インタビュー調査は2020年4月以降に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、インタビュー調査から自由記述式の質問紙調査へ調査方法を変更した。先の18名にメールまたは郵便で調査方法の変更および質問紙による調査の依頼文書と調査用紙を配布した。メールまたは郵便で回答のあった14名の回答について分析を行った。

2) 調査内容

自由記述式の質問紙調査を行った。質問内容は、①自分自身、②研修内容、③研修方法、④研修の時間・場所、⑤他の参加者、⑥講師、⑦その他、の7点について、継続して出席した、あるいはしようと思った理由がある場合は回答するように求めた。

Ⅲ 結果

1. 分類方法

上記の①～⑦の各項目ごとに回答された内容を分類し、カテゴリー名を命名した。一人の回答内でも異なる内容が書かれている場合は、それぞれの内容を異なるカテゴリーに分類した。なお各項目の回答において、別の項目内容にあてはまると考えられるもの（例えば、①に書かれているが、③の内容にあてはまるもの）は、あてはまると考えられる項目内容の中で分類した。また⑦に記載された内容は感想等が多く、今回は分析から除外した。表3～表7に分類

した自由記述の抜粋を示す。²⁾

2. 各項目の分類

1) 自分自身について

表3のように自分自身については、研修の機会を探していたり、内容を見て学びたいと思ったり、教育相談への興味があったなどの「学びへの意欲・興味」が11件、業務上必要に迫られたり、専門性の不足を感じていたなどの「教育相談の必要性」が7件、どのように生徒に接したらいいかのヒントを得るためなど「知識・方法の習得」が3件、これでいいのかという不安があったなど「不安」が3件、他者からの勧めや自身の人間関係の改善に関する内容の「その他」が2件であった。

2) 研修内容について

表4のように研修内容については、得るものが多かった、すべてが真新しかった、充実した研修だったなどの「有益さ」が7件、演習やワーク、講義資料や研修環境に関することなど「研修方法や資料の工夫」が6件、自分のニーズに合っていた、必要だと考えていた内容だったなど「ニーズとの適合」が5件、実践に研修から裏付けを得て安心したり、行き詰っていた原因を確認するなど「実践と繋げた理解」が5件、教員自身の自己理解の大切さを理解したなど「教員の自己理解の重要性」が5件、とても楽しかったなどの「楽しさ・安心感」が2件、学び直す必要があると思っていたなど「学び直し」が2件であった。

3) 研修時間・場所内容について

表5のように研修時間・場所内容については、時間や場所の参加しやすさや、月に1回1時間半であることへの「参加しやすさ」が15件、逆に平日の参加しづらさや開始時間についての「要望・難しさ」が4件、月に1回が楽しみだったという「楽しみ」が1件であった。

4) 他の参加者について

表6のように他の参加者については、他の教員の話しやすさや、同じ関心や意欲を持ってい

る者同士という安心感や思いを共有できることの有益さなど「安心感・共有の有益さ」が11件、遠方からの参加者や校種の違う参加者、勉強熱心な参加者から影響を受けたり、勉強になったなど「他者からの学び」が4件、座席がくじ引きであることや、それにより毎回違う参加者と交流できることなどの「くじ引きの良さ」が3件、同じ校種の参加者が少ないことの残念さ、違う校種の参加者との交流が勉強になったなど「異なる校種での交流」が3件、面識がある教員との再会など「顔見知りの懐かしさ・安心感」が3件、同じ立場、異校種、近くの職場の教員との出会いといった「新しいつながり」が2件であった。

5) 講師について

表7のように講師については、心地よさや、ほっとできる時間、室温などへの配慮など「雰囲気・気遣い」が6件、身近な例や経験からの話の興味深さや分かりやすさなど「具体例・経験からの話」が6件、講師が自己開示をしながら話をすることなどでの「親しみやすさ」が5件、説明や話し方などの「分かりやすさ」が4件、参加者への賞賛や参加者自身が自分を認めることに繋がるようなワークの実施等の「参加者へのねぎらい」が2件、定期的な学びの機会等を希望する「研修の要望」が2件であった。

表3 自分自身についての自由記述の抜粋

学びへの意欲・興味 (11件)

研修の機会を探していた。/ (内容を見て) 勉強してみたいと思い、受講した。/ 教育相談について興味・関心を持っていた。/ もう一度学び直したいと思った。/ 学びたく、研修できる場を探して研修している。/ 教育相談への興味があった。/ 教育相談のスキルを向上させたかった。/ (大学での長期研修の後) 継続的に学べる場所が欲しいと思っていた。

教育相談の必要性 (7件)

(業務上) 相談業務が欠かせなくなったから。/ 教育相談担当であるが専門性が足りないと感じていたため。/ 生徒、保護者への対応から必要に迫られて受講した。/ (教育相談担当になり) 必要に迫られて教育相談の専門性を高めるため。/ 教育相談について、体系的に学ぶ機会が少ないのに、今現場ではとても必要とされていると感じたから。

知識・方法の習得 (3件)

どのように生徒に接したらいいかのヒントを得るため。/ 少し専門的な知識がつけばと思い受講した。/ 不登校につながる問題等を解決するためにできる指導を学びたい。

不安 (3件)

これでいいのかという不安があった。/ それなりに教育相談的カウンセリングをやってきたが、果たして本当に生徒のためになっていたのかと思うようになった。/ (生徒や保護者との日々の関わりの中で) 判断に迷っている、模索で取り組んでいる。

その他 (自分自身のニーズ等) (2件)

先輩から勧められた。/ 人との関わりを楽にできたらいいなという思いがあった。

表4 研修内容についての自由記述の抜粋

有益さ (7件)

参加するごとに得るものが多かった。/ 保護者対応・生徒との関わりで基準や、参考になるもの、判断していける何かを与えてもらっていたので、参加を継続できた。/ もともと知識がなかったため、すべてが真新しかった。/ 「そうかあ」「なるほど」とうなずくことばかりで、毎回非常に充実した研修だった。/ いろいろな事例を使ってケース理解を教えてもらった。/ 保護者との関係作り、生徒に関して共通理解を図っていく上で参考になる研修内容だった。/ 後半の実践的な講義はとても参考になった。

研修方法や資料の工夫 (6件)

適度に演習やグループワークなどもあり、自分で体験しながら専門的な知識が身についたと思う。/ レジメがとてもよくまとまっていたので、後で見返しても分かりやすく、書き込みもしやすかった。/ 最新機器を使ったり、漫画を使用したり、毎回の読み物も楽しみだった。/ 音読する機会があり、参加者の声を聴くことができた。/ 話しやすい環境を作ること、安心できる環境をつくること、回を重ねることの効果を実感することができ、自分が教育相談やコーディネートしたりする際にはこうでありたいと思った。

ニーズとの適合 (5件)

自分のニーズに合っていて、とてもためになった。/ 必要だと考えていた内容の研修だった。

実践と繋げた理解 (5件)

手探りで不安を感じながらやっていたことに裏付けを得て安心できた。/ 間違いではなかったと確信できた。/ これまで知っていたことを確認することもできた。/ 仕事で行き詰っていた原因を確認することができた。

教員の自己理解の重要性 (5件)

自己理解、自己開示から始まって、自分自身が大切なことを学んだ。/ 自分の内面を理解する、客観的にとらえるワークを知れてよかった。/ (研修では教師が自分を捉えることから始まって) とても大切だと思った。/ (教師の自己理解が必要であるという考え等) 自分の考え方を見直すことができた。

楽しさ・安心感 (2件)

とても楽しかった。/ 毎回、心に温かい「何か」がいただけるような内容だった。

学び直し (2件)

よく分からないこと、分かったつもりになっていることが多かった。/ 「傾聴」「共感的理解」という言葉も学び直す必要があると思っていた。

表5 研修時間・場所についての自由記述の抜粋**参加しやすさ (15件)**

平日夜なので参加しやすかった。場所も時間もよかった。/(開始時間について)出席しやすかった。/場所が近くてとてもよかった。/(大学院生だったので)講義のあと、そのまま参加し、とても快適だった。/仕事を途中で切り上げて頭を切り替えるという点ではよいと思う。/日中だと、出張可能な人しか参加できないため勤務時間後が出席しやすい。/土日だど子どもの行事等で参加しにくいので、月に一回程度平日の夜にあり、参加しやすかった。/勤務時間後でよかった。/1時間半というのが、集中力が続く適度な時間だった。/A市は県内のどこからも集まりやすいところであるのは間違いない。

時間の要望・難しさ (4件)

平日開催は年度後半は大変だった。/勤務地から30分程度で参加できる場所だと一番難しい。/時間的にもう少しだけ早い方がありがたい。/中学校勤務者にとっては、10月の新入大会までは18時過ぎまで部活動をするため、遠方の先生には大変だったかもしれない。

楽しみ (1件)

月に一回、楽しみだった。

表6 他の参加者についての自由記述の抜粋**安心感・共有の有益さ (11件)**

どの先生も話やすかったし、温かみを感じた。/現場での悩みや課題を共有できたことは大きかった。/同じ気持ちを持っている参加者が多かった。/この研修を受けようと参加されている方々だったので、話しやすかった。/みなさん必要に駆られて参加されているので、すぐに意気投合できた。/子どもたちの育ちのために学びたいと思っている先生方ばかりで、とても安心して参加できた。/教育相談に関心を持っておられる先生方が集まる研修であるので、話しやすい雰囲気があった。/参加者の方々はとてもやさしく、少人数でのグループワークだったので、話しやすく、とても参加しやすかった。/他の参加者とのグループワークが必ずあり、日頃の出来事や悩み事も話せてよかった。/他の方の考えを知ること、自分を見つめること、共有することなど心理面との付き合い方の学びにもなり、安心感が増していった。/自分と同じような考えだとわかるのもほっとした。

他者からの学び (4件)

遠方から毎回参加されている先生の熱意にも影響を受けた。/校種も違って視点が微妙に違っていたので、参考になる面やヒントになる面があった。/よく勉強しておられる先生もおられ、新しい考え方をすることもできた。/グループワークの時に言われる意見が、自分にはない視点のものが多く、勉強になった。

くじ引きの良さ (3件)

毎回席が指定されて、違う参加者の方とペアやグループとなり、いろいろな方と一緒にできて楽しかった。/内弁慶で初対面の方との関わりが苦手だが、安心できる環境下、くじで席が決まって様々な方とワークをすることで知り合うことができた。

異なる校種での交流 (3件)

高校の参加者は少なめであまり出会うことがなく、少し残念だった。/継続的に校種の違う方とお話しできるのは、異なる視点をもたらえてとても勉強になった。/校種が違う先生と話すことで気づくこともあったが、校種が同じ先生だからこそ共感できる場面がもっとあるとよかった。

顔見知りのなつかしさ・安心感 (3件)

顔見知りの先生がおられ、懐かしく感じた。/面識のある方が多数参加されておられ心安かった。

新しいつながり (2件)

同じ立場の先生、異校種の先生とつながりができた。/近くの職場の先生がおられ、知り合いになれてよかった。

表7 講師についての自由記述の抜粋**雰囲気・気遣い (6件)**

勤務後だったので、ゆっくりと落ち着いた雰囲気にしてもらい大変ありがたかった。/講義の雰囲気が一日の疲れを楽にしてくれるような心地良さがあった。/(室温など)配慮してもらい、ありがたかった。/さりげない日々の家庭の話や感想やアンケートの内容などを聞くことができる時間もほっとすることのできる時間だった。

具体例・経験からの話 (6件)

身近な例を使用しての話がよかった。/たくさんの経験からの話が興味深かった。/理論と実践、臨床の実際の話を変えていて、各講座の話が深かった。/経験したことを踏まえて話すので、分かりやすかった。/(講師が)学校現場についてよく知っているので、話が分かりやすかった。/現場への支援や相談者との現状を知ることができ、とても勉強になった。

親しみやすさ (5件)

大学の先生というところかなり堅い印象があったが、話をとてもしやすく、話が聞きやすかった。/親しみやすく、(プライベートの話など)楽しく話を聞いた。/おもしろかったのも、それも楽しみだった。/講師自身が自己開示し、モデルになった。

分かりやすさ (4件)

説明が分かりやすかった。/話が大変ゆっくりで分かりやすい内容だった。/イメージがつきやすい話し方をしてもらったので、分かりやすかった。

参加者へのねぎらい (2件)

必ず、「研修に来たこと・この場にいること」を賞賛してもらった。/(教師自身についてのワークについて)自分自身に「よく頑張ったね」と言いたいという時は、涙がでてしまい、自分自身がつかれていたことに気づいた。/私自身の気持ちが楽になっていったことをお伝えしたい。

研修の要望 (2件)

定期的に学びの機会があると嬉しい。/もっと話を聞きたいと思った。

IV 考察

1. 各項目の特徴

以下、各項目において5件以上回答があったカテゴリについて考察する。

1) 自分自身について

自分自身に関する記述で多かったのが、「学びへの意欲・興味」(11件)と「教育相談の必要性」(7件)である。多くの参加者が教育相談を学びたい、あるいは教育相談への興味を持っており、研修参加前から意欲は高かったと考えられる。また教育相談担当など業務上必要に迫られている参加者も少なくなかったと考えられる。そのため研修内容は、①教育相談に興味がある参加者、②業務上必要に迫られている参加者、の両者が満足できる内容である必要がある。また①②ともに、教育相談の経験豊かな参加者もいれば、経験の少ない参加者も含まれると考えられる。

今回の研修は1回限りの研修ではないため、①のように教育相談への興味があったり、②のように業務上必要に迫られていても、毎回の研修で満足が得られなければ継続的に参加しないことが考えられる。この研修では、表面的な技法はほとんど扱わず、教育相談においてどのような場合でも必要である基本的姿勢や態度について繰り返し伝えるようにした。これは誰にでも、どのような場面でも重要な内容であるため、教員としての経験の長さや校種に関わらず、継続して参加しようと思うことに繋がった可能性がある。またこれらの姿勢や態度は、日々の児童生徒保護者の理解や関わりに直結するものであり、業務上必要に迫られた参加者においても有益さを感じた可能性が考えられる。

2) 研修内容について

研修内容に関する記述で多かったのは、「有益さ」(7件)や「研修方法や資料の工夫」(6件)、「ニーズとの適合」(5件)や「実践と繋げた理解」(5件)、「教員の自己理解の重要性」(5件)

であった。

「有益さ」については、参加者は勤務年数や経験も様々であると考えられるが、経験豊かな参加者でも有益さを感じた背景の1つとして、講師を務めた筆者が、教員とは異なる臨床心理学の専門家の視点から講義を行ったことで、参加者にとっては自分とは異なる視点を得られた感覚を持った可能性がある。このように臨床心理学の視点を教員に伝えることで、教員がより複眼的な眼を持つことができ、余裕をもって教育相談にあたることにもつながることが推測される。

「研修方法や資料の工夫」についての自由記述では、「演習やグループワークなど体験しながら専門的な知識が身についた」「レジメがまとまっていて見返しやすい書き込みやすい」「最新機器・漫画・読み物の楽しさ」「話しやすく安心できる環境」「回を重ねることの効果」などが書かれていた。これらのことからワーク(演習)や、ややもすると軽視される可能性もある配布資料や用いる機器等も参加の意欲につながる重要な要因であることが示唆されたと言える。また話しやすく参加しやすい環境を作るために、例えばくじ引きで座席を決めることで知り合いがいない参加者も安心して参加できるようにするなどの環境づくりの工夫も重要であることが推測された。

「ニーズとの適合」と「実践と繋げた理解」はそれぞれ5件あり、今回の研修内容が参加者のニーズや日々の実践と適合しており、それが継続的な参加に繋がったことが示唆された。筆者は日頃現職教員から、児童生徒の抱える課題への対応を手探りでやっているという話や、自分の児童生徒への対応でよかったのか不安であるという話を聞くことが少なくない。このように不安を抱え、手探りで対応する教員にとって、自分が知りたいと思っていた内容を知ることができる、また自分の実践への裏付けを得ることができる研修は、参加意欲が高まると考え

られる。

「教員の自己理解の重要性」(5件)に関しては、研修で教員自身の自己理解や自分自身の安定が重要であるということを繰り返し伝え、自己理解や自己の安定に繋がるようなワークを繰り返し行った。これにより参加者が自分に目を向けやすくなり、目の前の対応ばかりに右往左往するのではなく、そこで自分がどう感じるのか、自分はどうしたいのかを客観的に見ることに繋がり、研修の有益さを感じられたことが推察される。

3) 研修時間・場所について

「参加のしやすさ」(15件)では、開始時間(月1回水曜19時開始)、研修時間(1時間半)、場所(県中央部)のいずれについても良かったという記述が見られた。また「日中だと、出張可能な人しか参加できないため勤務時間後が出席しやすい」「土日だと子どもの行事等で参加しにくい」などの記述もあったため、個々の状況により一概には言えないが、平日の夜は参加しやすい時間である可能性が考えられる。

4) 他の参加者について

「安心感・共有の有益さ」(11件)では、他の参加者が話しやすかったことや、同じ気持ちを持って研修に参加しているという感覚があったこと、同じような悩みや気持ちを持っていると共有できたこと、日頃の出来事や悩みを話すことができたことなどが書かれていた。池本(2004)は教員のピア・サポートを目指した校内研修会のプログラム立案において、「教師が日常の業務を離れて、ほっとできる時間を保証する」「自己理解・他者理解をする中で各自が自己変容のきっかけをつかんだり、同僚と支え合ったりすることを、体験的に学べるような内容とする」「段階を追って、個人の内面に触れることができるような内容とする」などを挙げている。今回の研修はピア・サポートを中心的目的とはしてないが、業務後の時間に参加者がほっとしたり、自己理解や他者理解に繋がるよ

うなワークを毎回行ったことで、結果的にピア・サポート的な場になった可能性がある。これが継続的な参加を促進する一要因になったことが推察され、勤務校は違っても志を同じくし、子どもたちのためにと研修に参加する仲間としての感覚もあったことが考えられる。加えて神谷(2004)は「教師のための簡単なストレス解消法10」として、スポーツや食事、旅行などを楽しむ他、おしゃべり(雑談)や話すこと、教師同士の励まし合いや認めあいを挙げているが、他者と話すこと自体、参加者に心地よく感じられた可能性も推測される。

5) 講師について

「雰囲気・気遣い」(6件)や「親しみやすさ」(5件)のように、研修への参加意欲を高めるために講師自身が工夫できることも少なくないと考えられる。特に参加者の負担にならないような場の設定や話し方、話す内容等、参加者が安心して参加できる環境づくりについて、講師や研修実施者が気を配ることは重要であろう。

「具体例・経験からの話」(6件)のように、講師が理論のみではなく、学校臨床の経験を踏まえた話をするすることで、参加者が具体的にイメージしやすくなり、自分の実践と繋げて理解しやすくなったり、日々の実践に役立つ感覚が得られた可能性がある。このように教員を対象にした研修では、単に理論的な内容ではなく、理論と実践の両方が含まれた内容にすることが必要であることが示唆された。

2. 全体的考察

7つの質問内容(①自分自身、②研修内容、③研修方法、④研修の時間・場所、⑤他の参加者、⑥講師)において、5件以上回答があったカテゴリについて内容の類似性から検討した結果、図1のように「ニーズや実践とつながる研修内容」「自分を見つめる・他者と共有し受け止められる時間」「研修方法・環境の工夫」の3つの内容に分類されると考えられた³⁾

「ニーズや実践とつながる研修内容」のよう

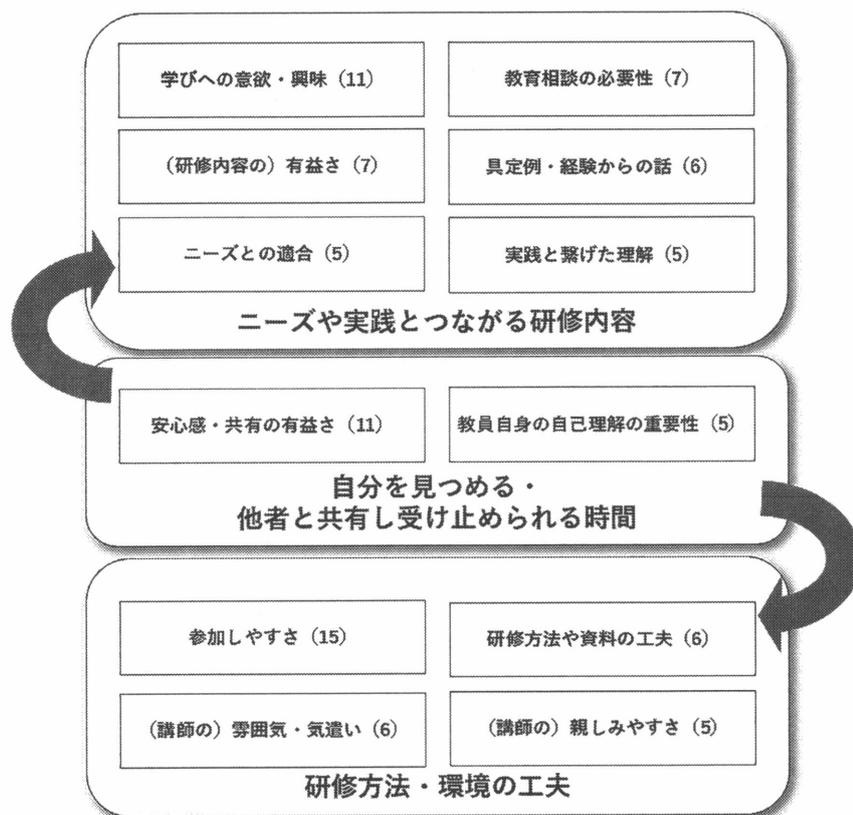


図1. 継続参加の要因

に、今回の研修の内容が参加者の興味やニーズと合っていたこと、また単なる知識の伝達ではなく学校の現場を踏まえた具体的な話し方であったこと、そして受講している中で自分にとって有益かつ実践と繋がる内容であると感じられたことなどが、参加意欲に繋がることが示唆されたと言えよう。

さらに「研修方法・環境の工夫」のように、「参加しやすい」研修の方法や研修の環境を整えることは重要であると考えられる。このように単に内容の良さだけでなく、時間や研修の構成、細かな工夫や講師の態度等も重要な参加意欲に繋がる要因となることが示された。

加えて、「自分を見つめる・他者と共有し受け止められる時間」のように、他者とのワークを毎回行うことで、「安心感・共有の有益さ」といった他の参加者と話すこと、聞いてもらうこと、日々の思いを共有すること、同じ思いであると安心できることは、参加者にとって何よ

り得難い体験であった可能性がある。そして「教員自身の自己理解の重要性」を理解することに繋がるようなワークを毎回行ったことにより、研修での時間は参加者自身が自分をゆっくり見つめ、自分を大切にする時間となったことも考えられる。このように研修の時間が参加者が自分を大切にできる、そして他者から大切にされる時間にするには、研修への参加意欲に繋がると考えられる。

そして「自分を見つめる・他者と共有し受け止められる時間」を持つことは、実践を振り返ることや実践に役立つことを知る時間にもなった可能性があり、「ニーズや実践とつながる研修内容」であるとも言える。また研修内に「自分を見つめる・他者と共有し受け止められる時間」を持つような時間を作ることは、「研修方法・環境の工夫」とも言えるだろう。このことから今回の検討では研修内容も研修方法・構成も重要であることが示されたと考えられ

るが、参加者自身が自己を振り返ったり、他者と行うワークはそれら両方の側面を持つと考えられる。

V まとめと今後の課題

今回の研修は月に1回、6回の研修であったが、参加者は月1回だけ研修の内容に触れたのではなく、研修と研修の間の期間も研修で学んだことを日々の生活の中で振り返ったり、実践と繋げて考えていた可能性も考えられる。このように単発でなく継続的に研修を行うことは、研修と研修の間の期間も研修の一部として機能する可能性もあり、より研修の効果が高まったり、参加者の満足感も高まることも推測される。

本研究の課題として、今回は継続的に参加した参加者に継続して出席した、あるいはしなくなった理由を尋ねているが、継続して参加していない参加者もいる。継続参加したくない理由や、参加が難しかった理由について、今後検討が必要であろう。

注

1) 申込期間内に定員(40名)を超えたため、定員を10名増やし、申込が50名を超えた時点で申込期間以前に申込受付は終了した。参加者募集のチラシに申込期間内でも定員を超えた場合は申し込みを締め切ることを記載している。

2) 語尾は敬体であったものも常体に揃えている。また内容を変えない範囲で文章を短くしたり、省略したりしている。また個人が特定できる部分や個人的な内容は除いている。

3) 括弧内の数字は件数を表す。

付記

本論文は、山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センターの活動として行った「教師のための教育相談力向上研修基礎編」への参加者

を対象に調査したものです。研修に参加してくださった皆様、調査にご協力いただいた皆様、参加者募集にご協力いただいた教育委員会や学校の皆様に心よりお礼申し上げます。

引用文献

秋光恵子・松本剛・藤原忠雄・新井肇(2009): 教師の自己理解と成長における大学院教育の役割 兵庫教育大学研究紀要,35,39-46.

青木真理・中野明德・昼田源四郎・水野晴夫(2001): 教育実践総合センター「教育相談」研修講座について第4報 2000年度活動報告および受講者アンケート調査結果の検討 福島大学教育学実践研究紀要,41,101-108.

新井肇(2007): 教師のバーンアウトの理解と援助 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要,6,23-26.

羽田紘一(2014): なぜ、教育相談を必要とするのか 新・教職課程シリーズ教育相談 一 藝社 pp12-21.

池本しおり(2004): 教師間のピア・サポートを目指した校内研修会 ピア・サポート研究,1,25-38.

石川須美子・小野貴美子・柴田雄企(2015): 教員研修会における自己理解促進の効果―「自己理解に基づくコミュニケーション」研修会の検討― 別府大学大学院紀要,17,29-36.

橋本宗和・夏野良司(1998): 教師のカウンセリング研修における psychoeducation の導入と意義 日本教育心理学会総会発表論文集,40,377.

神谷かつ江(2004): 教師のメンタルヘルスストレスとの上手なつきあい方― 東海女子短期大学紀要,30,55-64.

春日由美(2016): 教師の教育相談的資質向上研修における効果研究 南九州大学人間発達研究,6,63-70.

春日由美(2017): 教師のカウンセリング継続

- 研修における効果研究—自他意識・バーンアウト傾向の視点から— 南九州大学研究報告,47(B),1-8.
- 春日由美 (2020) : 教師の教育相談研修における効果研究 自他意識と研修における居場所感の視点から 山口大学教育学部研究論叢,69,13-20.
- 栗原慎二・神山貴弥・利田享次・林田正彦・本田千恵・戸野香 (2005) : 現職教員の生徒指導・教育相談雄力量形成のための研修プログラムに関する研究 学校教育実践学研究,11,13-24.
- 松田素行 (1999) : 教育相談研修を考える 月刊教職研修,27(8),108-111.
- 中島正雄 (2012) : 教師の教育相談研修に関する研究 神奈川大学心理・教育研究論集,32,59-68.
- 小川亮・下田芳幸・石津憲一郎 (2010) : カウンセリング指導員養成研修プログラムの開発 (1) 富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要教育実践研究,4,25-30.
- 榑原禎宏・大和真希子・小林新吾 (2005) : 自己省察を促す楽しい教員研修の方法—「与えられる」から「ともに作り出す」研修に関する追試— 教育実践学研究,10,71-85.
- 米田薫 (2008) : 教育センターにおける教育相談研修に関する研究 教育カウンセリング研究,2(1),26-33.

